

[第 2 回富良野市地域福祉計画策定市民委員会 議事録]

○日向福祉支援課主幹の進行で開会

○欠員保留の委員に副市長から辞令交付

○副市長あいさつ

市長別公務により、市長に代わりあいさつを申し上げます。

現在、少子高齢化の時代。高齢化と核家族化が進んでいる。

人口は減少しているが、世帯数は増えている。家族も傍にいない状況。

今はサービス提供者と本人が契約。基本は自宅に住むこと。支え合うことが重要。

地域福祉計画は平成 28 年度から 5 年間の計画。委員の皆さんの忌憚のない意見を頂きたい。

○委員の自己紹介

司会より各委員、職員を紹介。

(副市長公務により退席)

○議事進行 濱本会長が議長となり議事進行

○議事

報告事項 第 1 回委員会の開催内容について

①第 1 期富良野市地域福祉計画（平成 18 年 3 月作成）について（西尾係長）

②富良野市地域福祉計画策定市民委員会設置要綱（西尾係長）

③地域福祉計画の作成手順について（西尾係長）

協議事項 富良野市地域福祉計画策定について

①事前送付及び当日配布資料の確認について（西尾係長）

②今後の進め方について（西尾係長）

提案 1

介護や子どもの問題等、いろいろな文章にいじめなどの記述があっても、実際の所実態はどうなっているのかが分からない。分からないで議論はできないし、公式な委員会でも集まりづらいのに、実態を把握するために新たに委員会を招集することにはならないと思うので、各委員から事務局に質疑を提出し、次回の委員会に回答等を示して貰えれば各委員で情報の共有が図られると思うがいかが。

提案 2

勉強会があれば理解し易い。計画の中で出てくる福祉サービスの事業者や人的資源が市内にどのくらいあるのか教えていただきたい。

提案への回答（事務局）

提案 1 及び 2

事前に質疑等を提出いただければ、次回の委員会で資料等を含め事務局より説明。より専門的な分野で補足説明が必要あれば勉強会等を委員会の中で行うという流れで委員会を行うことは可能。

委員全員了承

質疑 1

福祉計画の中はボランティアという言葉で溢れている。これからのボランティアは、知識等を学ぶことが必要。具体的に育成する場、学ぶ場について考えるべき。その点についてお聞きしたい。

回答 1

地域を支える力として、ボランティアは大きな力となると認識しているが、どのように育成していくかについては、福祉分野だけに限らず、市全体的な面で議論していかなければならないと考えている。

質疑 2

富良野市は、ボランティア等の市民が学んでみたい、学ぼうとする機会をなくしている。もっと市民に学んでいただきたいこと等について積極的に取り組み、人材育成に力を入れてほしい。なぜ富良野市は市民後見人をやらないのか、今後のためにお聞きしたい。

回答 2

富良野市社会福祉協議会を中心に法人後見が取り組まれており、市民後見制度については取組んでいない。しかし認知症を含めた対象者の増加等による社会情勢の変化によっては、法人後見、市民後見について今後検討していかなければならないと考えている。

提案 3

計画書の中にただ「ボランティア」と書いてあるだけでは駄目で、どのように人材を育成するのか、どの位の人材が必要なのかといった目標値や行程は必要と考える。

委員全員了承

日程云々ではなく、具体例をもってボランティアの人材育成や、育成の方向性について計画に盛り込むこととなる。

質疑 3

次回の委員会までに、地域を担っていく社会福祉の専門員（人的社会資源）としての資料の報告をお願いしたい。

質疑 4

ボランティアの実態、福祉関係事業者数等の各種統計資料も報告を願う。

回答 3 及び 4

委員より質疑のあった資料の報告も含め、各種統計資料等を基に、方向性等の細かい部分は除くが、地域福祉計画の素案を示したい。

その他

- ・ 会議録の市ホームページへの掲載について

第 1 回地域福祉計画策定市民委員会の会議録も含め早急に対応したい。

- ・ 次回開催について

次期開催については、スケジュールのとおり平成 27 年 10 月下旬ころとしたい。

委員全員了解

閉会